

平成 30 年度 第 6 回未来創造セミナー
「SDGs からみる未来のまちづくり～SDGs で地域社会をイノベート！～」実績報告

1. 開催日時:平成 30 年 12 月 7 日(金) 18 時から 20 時
2. テーマ:「SDGs からみる未来のまちづくり～SDGs で地域社会をイノベート！～」
3. 話題提供者:
嶋崎 良伸氏(株式会社滋賀銀行 CSR 室長)
4. グループワーク
SDGs のまちづくりへの活かし方
5. 開催場所:UDCBK
6. スケジュール
18 時～18 時 10 分 SDGs について
18 時 10 分～19 時 10 分 話題提供 「SDGs で地域社会をイノベート！」
19 時 10 分～19 時 40 分 グループワーク
19 時 40 分～19 時 55 分 全体共有
7. 参加人数:20 名

8. 報告

(1) 「シリーズ SDGs からみる未来のまちづくり」について

本セミナー「SDGsからみる未来のまちづくり」は、SDGs について先進的な取組をしている大学、行政、企業の担当者を招き、これから未来のまちづくりを実施していく際に SDGs という考え方をどのように取り入れていけばいいかを参加者と一緒に考えるシリーズである。

今回は 3 回シリーズの 3 回目にあたる。第 1 回は立命館大学の建山先生をお招きし、「イノベーションから SDGs を考える」をテーマにお話をいただいた。何も無い白地のキャンパスからイノベーションを考えるより、SDGs のようにゴールは明確であるが、プロセスが自由である方がイノベーションを起こしやすいこと、そして、既存の技術を今までと異なる文脈におき、意味を読み替えてイノベーションを起こすデザイン・ドリブン・イノベーションの事例としてキャンパスをひとつの地球とみだてた「サステナブル・ウィーク」を紹介いただいた。

第 2 回は、SDGs の視点を取り入れることによって、滋賀県の政策がどのように変化した

のか、あるいは変化しようとしているかを県の商工観光労働部商工政策課の森口さんと土木交通部都市計画課の湯浅さんにお話いただいた。

今回の第3回は民間企業の代表として従来からCSR(企業の社会的責任)に取り組んでいた滋賀銀行がSDGsという新たな視点を取り入れることにとって、何が変わったかを豊富な事例とともにお話いただいた。

(2) SDGs の視点と取組

まずUDCBKの溝内から、SDGsについて簡単に説明した。

- SDGs(持続可能な開発目標)は2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに国際社会が取り組むべき17の目標と各目標に設定する169のターゲット、約230の指標の三重構造となっている。
- 特徴は、未来の姿から現在を振り返って政策を積み上げる「バックキャストिंग」のアプローチであること、経済成長、社会的包摂、環境保護という3つの課題の統合的解決であること、理念は「誰ひとり取り残さない」であり、方向性と目標のみで具体的政策や行動はみんなで考えること、である。

(3) 「SDGsで地域社会をイノベート！」 滋賀銀行のSDGsの取組

続いて、株式会社滋賀銀行CSR室長の嶋崎氏から滋賀銀行のSDGsの取組について説明いただいた。

- 滋賀銀行の環境への取組
滋賀銀行の経営理念は「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」であり、CSR憲章(経営理念)は「地域社会、役職員、地球環境の共存共栄」である。特に地域を大切にとの思いから、日本で初めて活動地域を滋賀県に限定した社会福祉法人を設立した。また滋賀県の1/6が琵琶湖、1/2が森林、琵琶湖はラムサール条約湿地に登録されるなど多種多様な自然環境を有しており、滋賀県の環境問題は「地球環境の縮図」と捉え、その解決に尽力するため、「環境経営」、「環境金融」、「環境ボランティア」、「エコオフィスづくり(カーボンニュートラル店舗)」に取り組んできた。
- 環境経営(CSR)からSDGsへ
 - 2015年は従来の環境政策からSDGs(持続可能な開発目標)に変わる歴史的転換点(パラダイムシフト)した年である。低炭素から脱炭素、財務資本重視から自然、社会資本重視に転換した。
 - SDGsにより、社会貢献活動(フィランソピー)から企業の社会的責任(CSR)を経て、事業活動を通して社会的課題を解決するに大きく転換した。
 - SDGsは、ビジネスチャンスであり、企業価値を向上させ、そしてステークホルダー(利害関係者)との関係を強化し、協働を促進する。
 - 社会的課題を解決するために経営資源を活用し、イノベーション(既存の方法を刷新する)を起こすことにより、ステークホルダーとの共有価値の創造を目指している。

- SDGs の活用

短期的な視点での取組、中長期的な視点での取組を行っている。

 - 短期的な視点は①既存事業に SDGs の17のゴールを紐づけること、②SDGs の視点から新たな取組を始めること、
 - 中長期的な視点は、SDGs の考え方を経営に統合すること。
- 短期的な視点での取組事例(既存事業に SDGs を紐づける)
 - 官民連携による地域新電力の創出(湖南省)

ゴール7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに
ゴール13 気候変動に具体的な対策を
地域の資源エネルギー(風力、水力、太陽光、廃棄物、地熱)を活用して地域を活性化した。
 - GAP 認証による農業分野の地域活性化

ゴール2 飢餓をゼロに
ゴール8 働きがいも経済成長も
これからは GAP 認証を受けた農作物でないと流通しないとの考えのもと、いち早く持続可能な農業を支援した。
 - 近江牛等のローカルブランディング

ゴール2 飢餓をゼロに
ゴール8 働きがいも経済成長も
滋賀県畜産振興協会の経営技術支援を前提に近江牛等を担保に資金供給した。
 - 「守山バラ」のブランド化支援

ゴール2 飢餓をゼロに
ゴール8 働きがいも経済成長も
担保ではなく、事業性評価により融資した。
 - 精密機械×廃校＝はなびらだけ(高島市)

ゴール2 飢餓をゼロに
ゴール8 働きがいも経済成長も
精密機械の検査工程の設備や培った技術や経験をきのこ栽培に挑戦し、栽培方法を確立した。高島市にある廃校を利用し、工場を建設するとともに障害者を採用するなど次々と社会的課題を解決している。
 - CSR 私募債「つながり」

ゴール4 質の高い教育をみんなに
ゴール17 パートナースhipで目標を達成しよう
私募債の利益でピアノ等を購入し、学校に寄贈している。

- 新たな取組
 - しがぎん SDGs 宣言

SDGs を活用して CSR 経営をさらに深化するため、地銀初の SDGs 宣言を行い、新たな取組として、社会的課題解決を起点としたビジネスを創出する次の4つを開始した。
 - エコビジネスマッチングフェア

ゴール7 エネルギーをみんなに、そしてクリーンに
 ゴール13 気候変動に具体的な対策を
 ゴール17 パートナーシップで目標を達成しよう

2008年から開催している環境に特化した展示商談会の出展企業に対して、該当する17のゴールの SDGs マークを表示し、SDGs の普及促進に努めた。
 - ビジネスフォーラム「サタデー起業塾」

ゴール17 パートナーシップで目標を達成しよう

地域金融機関の使命として2000年からニュービジネスの育成を支援している。エントリー企業に対して支援するとともに「しがぎん SDGs 賞」を新設した。
 - ニュービジネスサポート基金(SDGs プラン)

ゴール6 安全な水とトイレを世界中に
 ゴール15 緑の豊かさを守ろう

鎌倉市にある円覚寺の妙香池の水質を浄化させた実績を持つ株式会社ウィルステージ(本社:滋賀県草津市)に「ニュービジネスサポート資金(SDGsプラン)」第1号を実行し、持続可能な社会づくりに貢献する事業をサポートした。
 - 国際協力機構(JICA)との連携

ゴール17 パートナーシップで目標を達成しよう

2016年7月に JICA と業務提携し、開発途上地域での取引先の海外展開を支援している。

 - ◇ 株式会社日吉(本社:滋賀県近江八幡市)の「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」の採択及びビジネス環境の調査をサポート。適切に排水処理がなされていないインドで、生活排水処理施設の総合維持管理事業の展開を検討。本制度を活用してビジネス環境の調査を行い、事業化を目指す。事業化できればインドの水環境の改善に大きく貢献できる。

ゴール6 安全な水とトイレを世界中に
 ゴール9 産業と技術革新の基盤をつくろう
 - SDGs私募債「つながり」

ゴール17 パートナーシップで目標を達成しよう

SDGs に賛同する企業が共感する NPO 等に対して、活動資金の寄付や活動に必

要な物品を寄贈している。

➤ LGBT への取組

ゴール10 人や国の不平等をなくそう

住宅ローン配偶者に同性パートナーを追加。CSR 室の女性職員の発案から始まる。実現は難しいと思われていたが、関係各部署の協力で実現した。

➤ 滋賀 SDGs × イノベーションハブ

ゴール11 住み続けられるまちづくりを

ゴール12 つくる責任 つかう責任

ゴール17 パートナーシップで目標を達成しよう

社会的課題を解決するための新たなビジネスを起こすことを目的に行政と企業が共同で設置、3年間の期間限定で開設した。中長期的な視点での SDGs の活用を検討する。

9. グループワーク「SDGs のまちづくりへの活かし方」

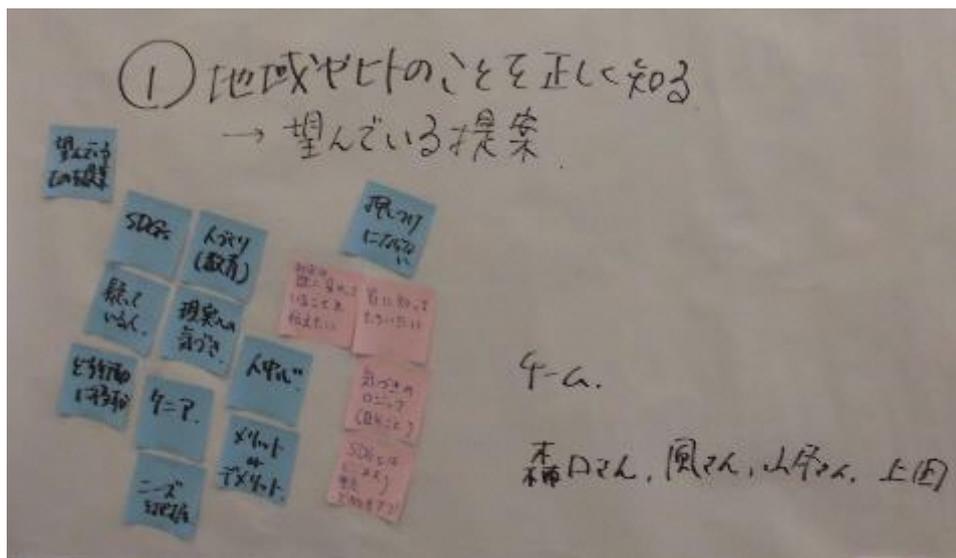
グループワークのファシリテーターは UDCBK の溝内が担当した。

滋賀銀行は全国の地銀で初めて SDGs 宣言を行った。御講演をお聞きすると、昔から環境や福祉など地域を意識した活動をされており、SDGs の視点を取り入れることによって、さらに地域との関係を深めようとされている。滋賀銀行の取組の中で、今回のテーマである「SDGs のまちづくりへの活かし方」として、次の3つがポイントになると思われる。

一つめは「域内循環」である。地域にある(未利用)資源を利活用し、地域で生産し、地域で消費する仕組みを考えること(「こなんウルトラパワー」など)で、地域を活性化する。二つめは「既存の取組の読み替え」である。精密機械の検査工程の技術を構造化し、きのこ栽培に転用したり、廃校を工場に転用したり、今までの使い方と異なる使い方を考えること(「はなびらだけ」など)で、新たな産業を起こす。最後の3つめは「未来のビジョンの共有」である。他者とビジョンを共有し、自分が不得手なことが得意な団体と協働すること(SDGs 私募債「つながり」など)で、未来のまちを創る。この3つのポイントを踏まえ、グループで「SDGs のまちづくりの活かし方」について話し合っていた。各グループには、第1回に事例として紹介した立命館大学のサステイナブル・ウィーク実行委員会のメンバーである学生に1名ずつ参加していただき、議論を盛り上げていただいた。その結果は次頁の通り。

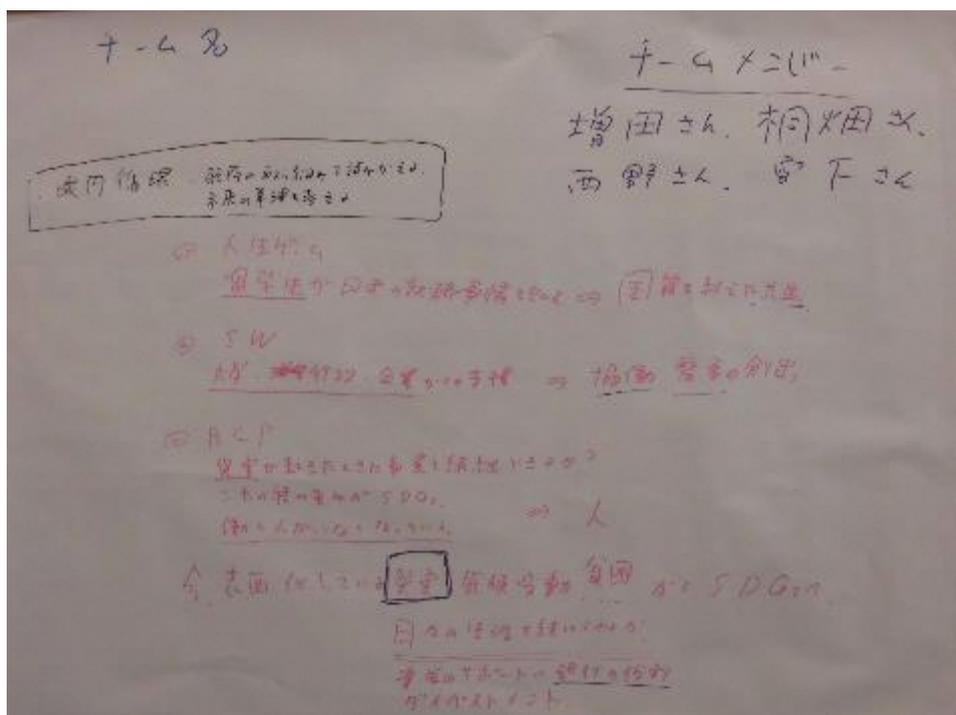
● グループ1

SDGs は開発経済学の系譜もあることから、このグループでは、支援者として持続可能な開発を推進する際の心構えについて話し合われた。まずは地域やヒトのことを正しく知り、その地域やヒトが望んでいることを正確に理解する。いわば、財やサービス中心ではなく、人中心で進めていくこと、そのためには人づくりが大切なことを議論した。このプロセスを通じて、自分ごととして気づくことが大切である。



● グループ2

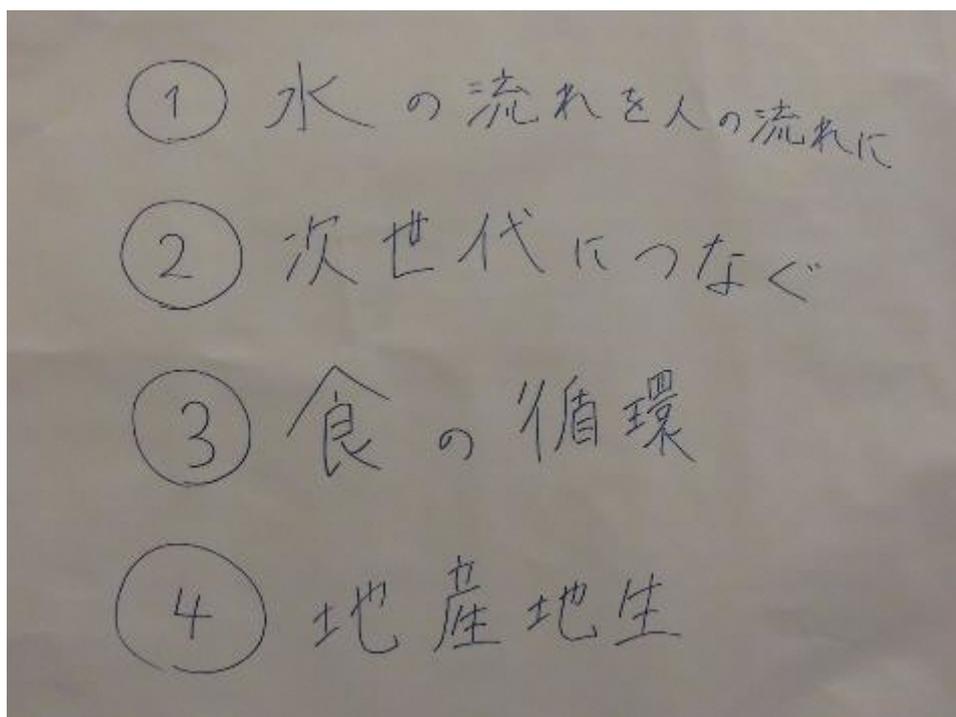
参加者個々が取り組んでいるSDGsに関する活動の紹介(留学生の日本での経験を追体験する人生ゲーム、キャンパスをひとつの地球に見立てたサステイナブル・ウィーク等)のあと、BCP(災害時等の事業継続計画)について議論した。災害時には地域の脆弱なところが露わになることから、BCPを構築することの積み重ねがSDGsであることがわかった。また銀行の役割としてダイベストメント(化石燃料を使用している企業から資金を引き上げること)という手法があることを話した。



● グループ3

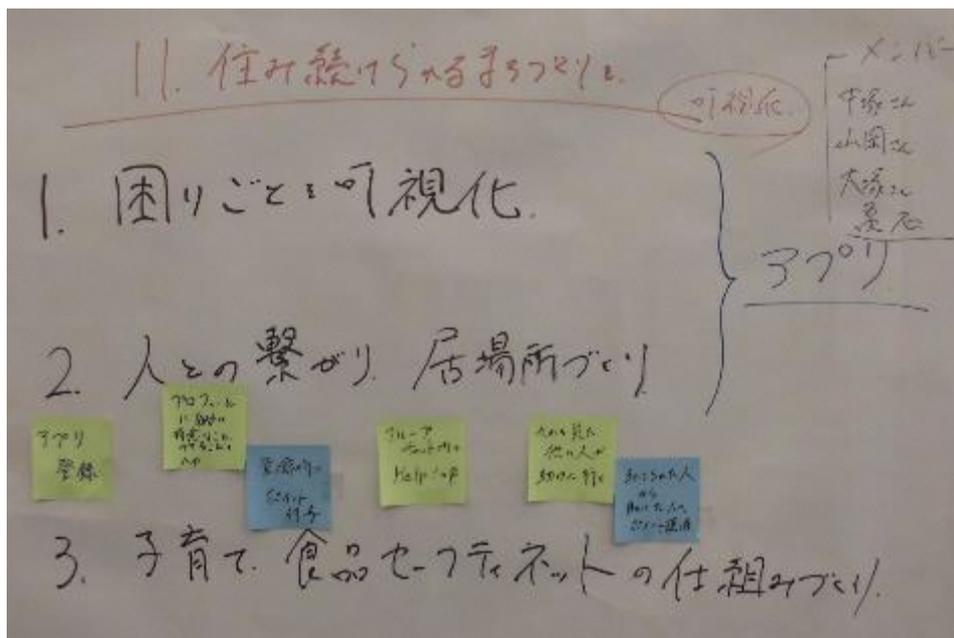
①の「水の流れを人の流れに」は草津川跡地のことである。廃川を道路にするのではなく、公園にし、防災や人々の交流の場として整備したのは SDGs そのものである。

④の「地産地生」は造語であるが、地元で生まれ、地元で人生を全うすることは、今だからこそ、大切であるように思う。地方では学ぶ場も働く場もなく、高校から都会にでていく人も多い。地域で学ぶ場、働く場があれば、地元で生まれ、地元で人生を全うすることが可能となり、まさしく SDGs である。



- グループ4

このグループでは、ゴール11「住み続けられるまちづくり」をテーマに話し合った。まずは「困りごとの可視化」であり、それによって、人とのつながりや居場所を作る。特に関心が高い子育てや食品の安全性については早急に産学公民が連携して助けあう仕組みが必要。



- 嶋崎氏のコメント

すべての提案に「繋がり」という言葉がある。人と人がつながるためには、地域を知り、お互いを知りあい、自分ごととして捉えることが重要である。また BCP の事例がでたので、防災備蓄品を扱う企業の取組を紹介する。この企業の防災備蓄品の消費期限は3年であるが、2年で買い替えを進めて食糧難の途上国に寄付する仕組みを構築した。今まで企業は3年たった備蓄品の処分に困っていたが、その問題を解決できるとともに社会貢献もできることになる。またこの企業も売り上げが1.5倍に増える。このような Win-Win-Win の取組は参考になるだろう。

またダイベストメントであるが、これは化石燃料を使用している企業に投資しないことであるが、今や環境問題というよりも経営リスクの問題として認識している。ドバイなどの産油国は石油の利益で AI や自然エネルギーに投資している。

このように環境問題や社会問題は経済問題であり、SDGs はそのことを世界の共通言語として表現している。SDGs をやらないという選択肢はなく、SDGs の考え方を経営に統合することが滋賀銀行としての課題でもある。

10. まとめ

「SDGs からみる未来のまちづくり」と題して 3 回シリーズで開催しました。

SDGs が目指す持続可能なまちづくりは計画ありきではなく、2030 年までに達成すべき 17 のゴールと169のターゲット、そして232の指標で構成されているだけで、どのような方法で解決するのか、また達成したあとにどんな未来が開かれているのかまでは記されていません。このようなことから、SDGs について先進的な取組をしている大学、行政、そして企業の方をお招きし、それぞれがどのように SDGs に取り組んでいるかを学び、これからの草津の未来のまちづくりに SDGs の視点をどう取り入れていくかを考えました。

3 回のシリーズを通して SDGs の視点を取り入れてまちづくりを進めるうえでのポイントは、

- ①可能な限り地域内で財やサービスを賄うこと(域内循環)、
- ②可能な限り域内循環を達成するため、既存の資源を意味の読み替えによって別の文脈や用途で活用すること(デザイン・ドリブン・イノベーション)、
- ③ビジョンを共有し、それぞれができることをする、の3つであることがわかりました。

そして、三者共通の課題は、みんなと共有できる“三方よし”のビジョン、すなわち目指すべき地域の未来の姿を描き切れていないことでした。

まちづくりは、大学だけで、行政だけで、また企業だけで出来るものではなく、この三者に市民を加えた産学公民が連携して創りあげていくものです。

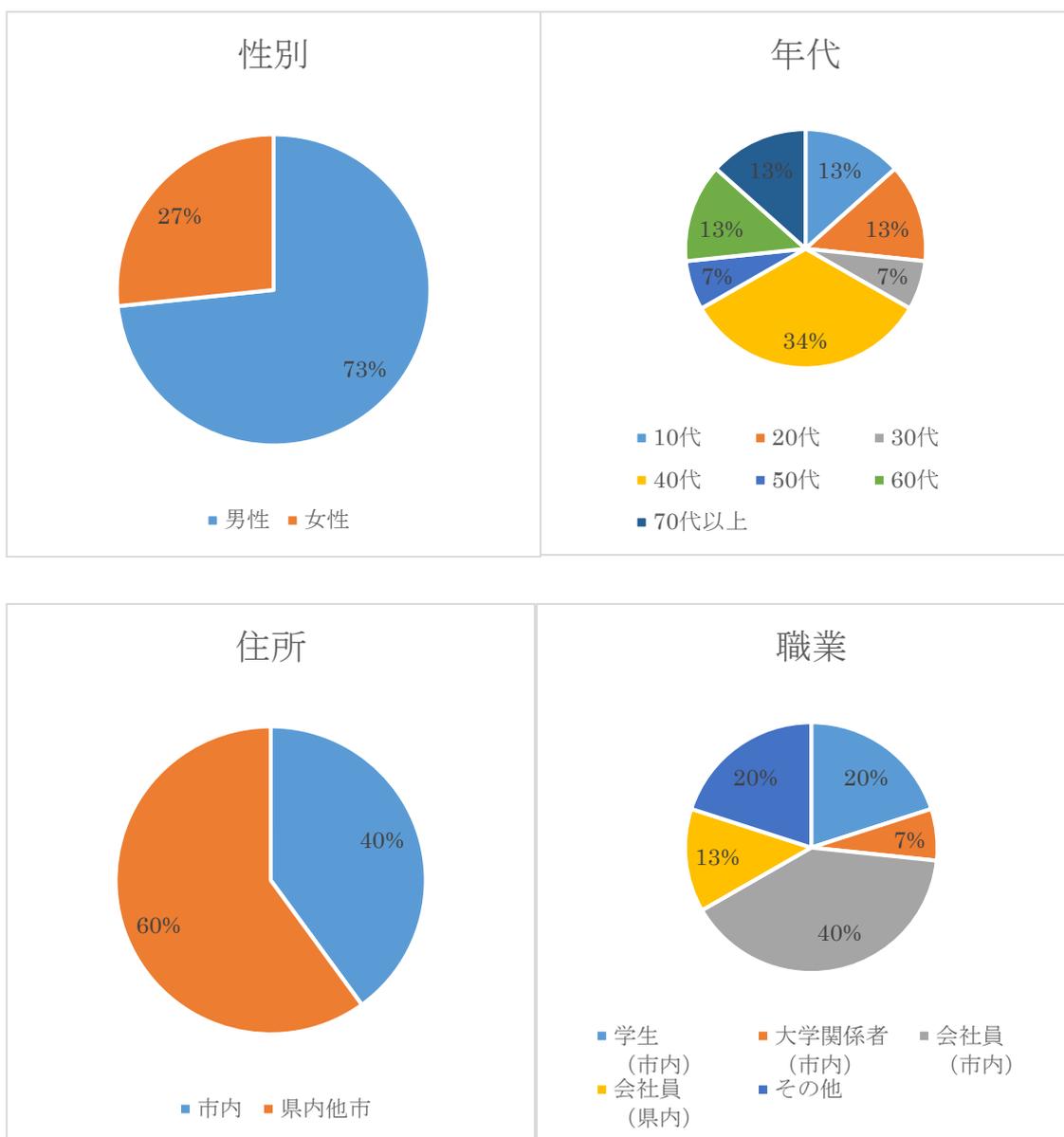
従って、地域の産学公民連携のプラットフォームである UDGBK の役割は、みんなと共有できる“三方よし”のビジョン、すなわち目指すべき地域の未来の姿をつくりあげ、産学公民それぞれができることを都市デザインの観点から支援していくことです。

この未来を構想していくうえで、SDGs の視点を取り入れることは多様な考えを取り入れつつ、その多様な思いを一定方向の一定の幅に収束していく効果を持ち、異なる考え方が重なり合うことによって協働の可能性が増加すると考えています。

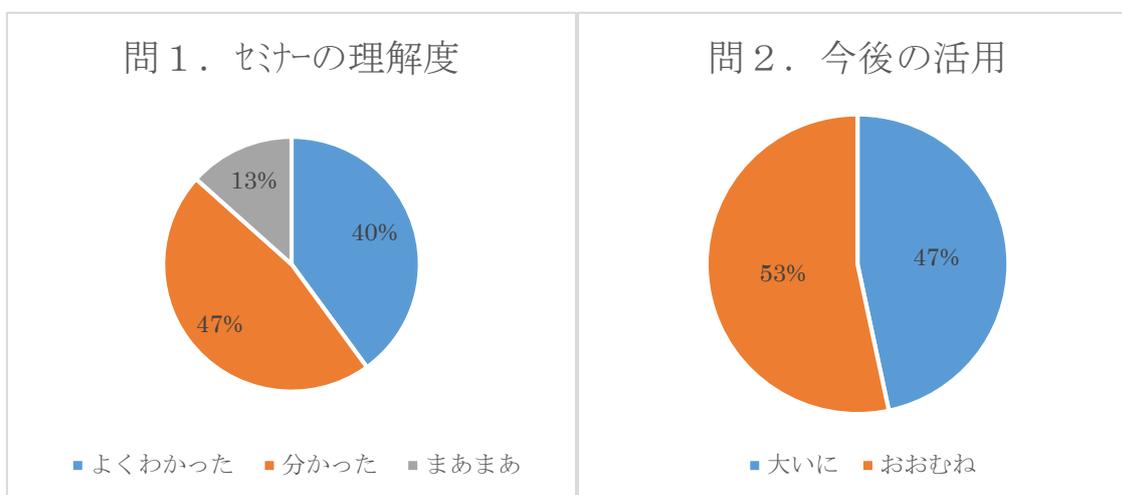
11. アンケート結果

参加 20 名のうち、アンケートに回答していただいた方は 15 名でした。アンケート回答率は 75%です。

(1) 参加者属性



(2) セミナーの内容について



(3) 内容に関する主な自由回答

- SDGsに関心をもっている人と話し合いができる機会として大変おもしろかったです。
- SDGs=BCP、現在の課題です。企業にとってもこれどうなのか？SDGsにとBCPの関連について
- 滋賀銀行さんのSDGsへの取り組みがよく分かった。
- 勉強になりました。3方よしの実態、意義がよく分かりました。
- 銀行さんのお話を聞く機会はあまりなかったのでありがたかったです。
- 経済的な活動と人のつながりについて考える機会をいただけて良かった。
- 私募債に関心があり、うまく活用できそうです。
- 毎回いろいろな刺激を受けて学びが多いです。またこうした機会があると嬉しいです。

以上